

国立がんセンターが担う主な役割（現状）

（ 研 究 ）

- 革新的ながんの予防法、高度先駆的ながんの診断や治療等の研究開発
 - ・最新の知見に基づいた標準的治療の開発
 - ・がんの本態（原因）解明とそれに基づく予防方法の研究開発
 - ・革新的ながんの予防法の開発
 - ・基礎的研究成果や最先端技術を応用した新しい診断および治療技術の開発と積極的臨床導入
- 我が国における臨床研究等の体制整備
 - ・治験（国際共同治験も多数）・医師主導治験・研究者主導臨床試験の推進
 - ・研究者主導多施設共同臨床試験のデータセンターの整備・運用と臨床試験の質（科学性・倫理性）の向上
- がん検診にかかる研究推進
 - ・がん検診の有効性評価（ガイドラインの作成・更新）および精度管理の向上に係る研究
 - ・有効ながん検診法や検診率向上のための方策開発

（医療の均てん化）

- がん医療の標準化・均てん化
 - ・最新の知見に基づいた標準的治療の実践・普及
 - ・外来通院治療などの効率的・効果的ながん医療の実践と普及
 - ・がん医療を行う医療機関の連携促進
 - ・がん医療の質の管理の推進
 - ・診療支援（病理診断・画像診断支援の実施や放射線治療の品質管理等）
 - ・がん患者に対する緩和医療の提供と療養生活の質の向上と普及
- がんの実態把握と有効な予防法の実践
 - ・がんの実態把握としての地域がん登録の支援
 - ・がんの罹患、転帰などの現状把握を推進するための体制整備

（人 材 育 成）

- がん医療を推進する人材育成
 - ・専門的知識・技術を有する医療従事者の育成（がん診療に従事する医師、看護師等の国主催の研修、放射線治療計画に係る研修、がん登録実務者研修等）
 - ・がん患者の療養生活の質の向上にかかる人材の育成（相談支援センター相談員講習会等）
 - ・高度先駆的ながん医療技術の開発とその基礎を担う人材育成
 - ・臨床研究に関する人材育成と教育・施設整備を実施中（医療技術実用化総合研究事業・臨床研究基盤整備推進研究）

（情 報 発 信）

- がん医療にかかる情報提供
 - ・がん対策情報センターにおけるがん医療等にかかる情報収集及び提供

（その他）

- がん対策に必要な研究の企画・立案及び研究資金配分機能（FA）の実施
- がん対策における国際協力の推進

わが国の医療政策と国立がんセンター(NCC)を取り巻く環境と課題(考え方)

| <p>環境</p> <p>NCC</p> | 機会 | 脅威 |
|---|--|--|
| | <p><u>医療政策上の機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーション促進の機運 (「新健康フォロンティア」や「イノベーション25」) ・国家研究戦略への積極的関与 ・医療機能の分化の促進 <p><u>NCCの直面する機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・非公務員型独法化による産学との連携の促進 ・企業・アカデミアとの連携 ・大規模な国家プロジェクトの推進の機運 | <p><u>医療政策上の脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の更なる進展 ・医師確保難など地域医療の脆弱化 ・NCCの医療・研究の成果の政策への取り込みが不十分 <p><u>NCCの直面する脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政基盤脆弱化のおそれ ・絞り込めていない総花的医療・研究 ・優秀な人材の確保難のおそれ ・大学等との競合の熾烈化 ・地域医療との連携の弱さ |
| <p>強み</p> | <p>国立がんセンターの主な課題</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・特定分野の患者集積性が高い ・特定分野の専門家集団 ・病院と研究所が隣接していることによる総合力 ・ITインフラ実績および人材確保 ・IT企業との連携 <p>研究：・長年にわたる優れた独創的基礎研究の蓄積</p> <p>医療：・豊富な臨床実績</p> <p>人材育成：・特定分野及び総合診療について診療</p> <p>情報発信：・研究の厚い指導体制</p> <p>情報発信：・特定分野及び総合診療についての総合的な情報提供</p> | <p>○先駆的医療等の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治験や臨床研究の強化 ・がんの実態把握と原因の究明に基づく予防法の開発と実践 ・がん検診に係る研究の推進 ・高度先駆的ながんの診断や治療等の研究開発の推進 ・高度先駆的がん医療技術の開発 <p>○医療の均てん化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新の科学的知見に基づく標準的治療の開発・実践・普及や我が国における治験や臨床試験の体制整備 ・病院－研究所人事交流による臨床研究活性化 ・診療支援機能 <p>○人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度先駆的がん医療技術の基礎を担う人材の育成 ・高度先駆的がん医療、臨床試験の実施、人材育成などの指導ができる医師の研修・育成 ・がん診療連携拠点病院における地域医療を支える研修・育成 ・発がんメカニズム、がんの予防・診断・治療法の開発、がん患者のQOL、がん情報等に関する研究者の養成 ・がん診療に関する専門的技術・知識を有する医師及びコメディカルスタッフの育成 ・臨床研究を立案・実施・支援できる医療スタッフの育成 <p>○情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん医療等に係る情報収集及び提供 ・がんの罹患、転帰等の現状把握 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的人材育成と交流の促進 ・海外諸国との基礎・臨床研究交流の促進 ・IARC(国際がん研究機関)等の多国間交流及び日英、日仏、日中、日韓等の二国間研究協力の推進 | |
| <p>弱み</p> | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・特定分野に専門分化したことによる医療ニーズの把握が困難 ・研究成果と臨床応用との連携が弱い ・寄付・投資の受け皿がない <p>研究：・医学外の集学的研究体制が弱い</p> <p>医療：・企業との連携が未成熟</p> <p>医療：・都道府県等との連携が弱い</p> <p>医療：・医療提供の「支援・指導者」としての位置づけが未成熟</p> <p>医療：・定員に制約があり医療ニーズに対応した人員配置が不十分</p> <p>人材育成：・医療と研究のキャリアパスが未成熟</p> <p>情報発信：・社会的情報発信が弱い</p> | | |

国立循環器病センターが担う主な役割（現状）

（ 研 究 ）

循環器病対策及び血管科学推進の中核機関として、さらなる救命率とQOL向上に資する医療技術等の開発に向けて、臨床ニーズに基づく基礎・基盤的研究から、応用研究、臨床研究を積極的に推進。

○重症循環器病の画期的診断・治療技術の開発

- ・重症心不全の特殊治療法（心臓移植手術、補助人工心臓・人工肺の開発と臨床応用等）
- ・突然死をきたす不整脈、心筋症及び若年性動脈瘤の遺伝子診断
- ・難治性・致死性不整脈の治療法
- ・重篤な先天性心疾患、脳血管奇形等の高度な治療法
- ・肺高血圧症の画期的な薬物治療法 等

○循環器病予防管理法の開発

- ・循環器病予防の観点からのメタボリックシンドローム等生活習慣病、慢性腎疾患の管理、予防教育法の確立

○循環器病の高度医療支援技術開発

- ・手術支援ロボットを用いた低侵襲手術法等、ロボットを利用した高度医療支援技術の臨床応用の推進

○循環器病に係る治験・臨床研究の推進

- ・人工心臓の治験、医師主導型の治験等の国が政策として推進するプロジェクトの中心的役割

○病院と研究所が一体となった次世代循環器医療の研究開発

- ・完全埋め込みを可能とする高機能の人工心臓、ペースメーカー等の開発
- ・生体内の生理活性物質（ペプチド・蛋白質等）の発見と診断・治療薬等への応用
- ・治療困難患者に対する心臓弁・心筋・血管再生医療（骨髄間葉系幹細胞移植等）の推進
- ・テーラーメイド医療の実施に向けたゲノム・遺伝子解析、ナノメディスン、プロテオーム研究等の展開

○循環器病モデル医療の開発（超急性期や重篤症例にも適応可能な安全安心医療システムの開発）

- ・循環器救急医療のモバイルテレメディスンシステムの開発（救急車と医療機関の情報連携による院外死防止）
- ・他施設では対応困難な重症小児循環器病に対する高度な医療の開発

○研究基盤の整備

- ・高度先端医療機器等の早急実用化に向け医工・産学官連携の中核となる「先進医工学センター」を設置
- ・多くの希少な循環器病データベース（国内唯一の都市住民を対象とする循環器病疫学研究成果等）を構築

（ 医療の均てん化 ）

心臓移植法等の高度先駆的医療等を展開しつつ、均てん化すべき診療内容等について国・学会等に提言。

○高度先駆的医療の実践と標準化

- ・胎児から成人に至る心臓・脳血管・大血管の高度手術等を先導する中心的施設
- ・学会等と連携した標準的予防・診療法の確立に資するガイドライン・プロトコール等の整備

○循環器病モデル医療の普及

①超急性期や重篤症例にも適応可能な安全安心医療システムの普及

- ・脳卒中、心疾患及び血管疾患等に対する高度救急・集中治療システムの確立
- ・循環器病合併妊娠・分娩管理の迅速化・高信頼性の確保

②循環器病に係る診療連携モデルの普及

- ・組織移植ネットワークの中核施設として心臓同種弁の組織保存バンクの運営
- ・地域連携クリティカルパスの開発とバリエーション症例への対応（病・病・診連携）

（ 人 材 育 成 ）

循環器病医療を担う高度な専門医・研究者等を養成し、全国の大学・医療機関へ輩出（教授100名超など）。

○高度専門家（臨床家、研究者）の育成

- ・循環器病専門医師の育成（レジデント・専門修練医）、流動研究員制度による循環器分野の研究者育成
- ・専門性の高い看護師・技師等の医療従事者の育成と専門看護師（CVEN）認定
- ・外国人を含む循環器病医療・研究を担う指導的人材を養成し、国内外の医療機関・研究機関等へ輩出

（ 情 報 発 信 ）

最先端の情報技術を活用して循環器病医療及び研究活動を支援するとともに、国内外へ情報発信。

○情報技術を活用した医療・研究の支援

- ・循環器病診療総合支援全国ネットワークシステム（循ネット）の運用
- ・循環器病情報サービス等の運用により最新・最良の医療情報を発信（国民及び医療従事者対象）

（ そ の 他 ）

○国際共同研究等の推進

- ・米国国立衛生研究所心肺血液研究所（NIH/NHLBI）、瑞国カロリンスカ研究所等との共同シンポジウム等を開催

わが国の医療政策と国立循環器病センター（NCVC）を取り巻く環境と課題（考え方）

| <p style="text-align: center;">環 境</p> <p style="text-align: center;">NCVC</p> | 機 会 | 脅 威 |
|---|--|---|
| | <p><u>医療政策上の機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーション促進の機運 ・新健康フロンティア戦略の策定 ・医療機能の分化の促進 ・循環器病及び危険因子となる生活習慣病の増加 ・高齢化による循環器疾患の重症化 <p><u>NCVCの直面する機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・非公務員型独法化による産学との連携の促進 ・独創的な医療材料・医療機器の研究、創薬研究の総本山であること | <p><u>医療政策上の脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師確保難など地域医療の脆弱化 ・NCVCの医療・研究成果の政策への取り込みが不十分（循環器病克服10カ年戦略を策定し厚生労働省へ提出） <p><u>NCVCの直面する脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政基盤脆弱化のおそれ ・大学等の困り込みの下で優秀な人材確保の困難化のおそれ ・大学等との競合の熾烈化 ・地域医療との連携の弱さ |
| <p style="text-align: center;">強 み</p> | <p>国立循環器病センターの主な課題</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・循環器病分野の高い患者集積性 ・循環器病分野の専門家集団 ・医薬工理の優秀な人材の集積 ・人工心臓・肺の開発と製品化、生体内生理活性物質の発見と製品化の経験 <p>研 究：組織力・継続性</p> <p>医 療：豊富な臨床実績</p> <p>人材育成：循環器病分野について診療・研究の厚い指導体制</p> <p>情報発信：循ネットの運用経験に基づく新ネットワーク化、循環器病分野についての総合的な情報提供</p> | <p>○<u>先駆的医療等の研究</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・NCVCが自ら担う役割（領域）を明確化し、産学、拠点病院等との連携（循環器病医療クラスター（仮称））を形成 ・基礎研究成果と臨床応用との連携による製品化の経験を活かし、TR（トランスレーショナルリサーチ）の一層の推進 ・研究開発を効果的に推進できるようプロジェクト方式を活用した資源配分の優先化と研究基盤の整備（治験・臨床研究専用病床の整備と運用、専門的人材の育成確保、臨床研究の全国的なデータベース化等） <p>○<u>医療の均てん化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新循ネット（第二世代循環器病診療総合支援ネットワークシステム）による循環器病拠点病院ネットワークを構築する等、循環器病医療均てん化の道筋を確立。 ・循環器病発症登録データベース等の情報基盤の強化に基づき、均てん化の進捗状況を評価。地域医療体制構築に助言。 | |
| <p style="text-align: center;">弱 み</p> | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・循環器病分野に専門分化したことによる他科疾病の診断と治療への低い対応力。 <p>研 究：国立機関であることから、営利企業との連携、ベンチャービジネス設立に限界</p> <p>医 療：データの集約化・系統的解析が不十分</p> <p>人材育成：医療と研究のキャリアパスの位置づけの明確化が必要</p> <p>情報発信：患者・国民向けの情報、世界に向けた情報の発信が課題</p> | <p>○<u>人材育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・NCVCに有能な医療職種及び研究者を惹きつけ育成するためのキャリアパスの構築とポストの設置。 ・全国へのモデル医療・標準的医療の均てん化のための指導的な循環器専門家の育成。 <p>○<u>情報発信</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器専門家だけでなく、患者・国民向けの質の高い情報を発信。 <p>○<u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・NCVCの医療・研究の成果を踏まえ、学会や有識者等との強固で豊潤なネットワークを戦略的に活用して、医療政策への提言機能を発揮。 | |

国立精神・神経センターが担う主な役割（現状）

| |
|---|
| <p>（研 究）</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 高度先駆的な医療技術の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神、神経、筋、発達障害の疾患に係る生物学的研究として、病態機序の解明、診断法及び治療法の開発に係る研究が進行中（多発性硬化症、筋ジス等神経難病、統合失調症、気分障害、睡眠障害等） ・ 乳幼児期から児童・思春期、成人期、老年期に至るまでの各種精神疾患の社会学的研究及び精神保健福祉保健関連の研究が進行中 ○ 医薬品及び医療機器の TR・治験 <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神、神経、筋、発達障害の分野に係る治験及び臨床研究を推進（治験の拠点（統合失調症・うつ病等）） ・ 遺伝子治療等トランスレーショナルメディシンの推進（筋ジス、パーキンソン病、ハンチントン病等） ○ 医療の均てん化手法（モデル医療・標準的医療）の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・ 難治性の統合失調症・うつ病等のモデル医療の開発 ・ パーキンソン病・筋疾患治療の治療法の開発 ・ 精神医療の退院促進及び地域包括的ケア（ACT）の開発 ○ 研究基盤の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 重症心身障害児ネットワーク等政策医療ネットワークの拠点 ・ 臨床応用を指向し、生体バンクや動物実験などの研究基盤を整備（筋バンク等） ・ 精神、神経、筋、発達障害の疾患の治験及び臨床研究に係る拠点施設 ・ 国内外の研究者との研究交流（共同研究の推進） ○ 政策課題の解決に寄与 <ul style="list-style-type: none"> ・ 政策的研究（自殺対策・社会的入院の解消・医療観察法）の実施 |
| <p>（医療の均てん化）</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ モデル医療・標準的医療の普及 <ul style="list-style-type: none"> ・ 長期在院から地域への地域医療モデルの推進（地域包括ケア：ACT、チームによる退院促進等） ・ 公的医療等に係る標準的医療の推進（精神科合併症、発達障害や幼児虐待への総合的対応等） ・ 先進医療の普及の促進（DNA 診断、認知症及び統合失調症の早期診断等、てんかんモニタリング・外科治療、遺伝子カウンセリング等） ・ 専門的な精神医療分野に係る専門医療の普及を促進（難治性の統合失調症・うつ病、児童思春期精神疾患、薬物依存、睡眠障害、学習障害、自閉症等） |
| <p>（人材育成）</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 高度専門家（臨床家、研究者）の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神・神経・筋疾患及び発達障害に係る専門医等の人材育成（レジデント等） ・ 自治体職員に対する精神保健等に係る技術の向上策の展開（研修） ○ 新たな専門分野の人材の育成と確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療観察法病棟運営スタッフの育成（医師、コメディカル） |
| <p>（情報発信）</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 国内外での最新知見（研究成果等）を収集・評価し、最良の情報を提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ 診断治療のガイドラインの策定と公表（摂食障害、PTSD、アルコール依存、ADHD 等） ・ 「自殺予防総合対策センター」の設置による関係者、国民に対する情報発信 ・ WHO 等の国際機関に対して我が国の精神・神経疾患の情報を提供 ・ 本省の政策立案及び施策の推進に資する情報の発信 |
| <p>（その他）</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療観察法の運用に関する中心的機関（診療、研究、研修、情報発信） |

我が国の医療政策と国立精神・神経センター（NCNP）を取り巻く環境と課題（考え方）

| | | |
|---|--|--|
| <p>環境</p> <p>NCNP</p> | <p style="text-align: center;">機 会</p> <p><u>医療政策上の機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーション促進の機運 ・脳の科学の進歩及び神経・筋疾患に係る遺伝子レベルの解明の進歩 ・医療機能分化の促進及び地域生活支援体制の強化 ・医療観察法の円滑な運営 ・自殺予防対策の促進 <p><u>NCの直面する機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・非公務員型独法化による産学との連携の促進 ・武蔵病院の新棟建築（H23 開棟予定） | <p style="text-align: center;">脅 威</p> <p><u>医療政策上の脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の更なる進展 ・医師確保難など地域医療の脆弱化 ・NCの医療・研究の成果の政策への取り込みが不十分 <p><u>NCの直面する脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政基盤脆弱化のおそれ ・絞り込めていない総花的医療・研究 ・優秀な人材の確保難のおそれ ・大学等との競合の熾烈化 ・地域医療との連携の弱さ |
| <p>強み</p> | <p>国立精神・神経センターの主な課題</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・精神、神経、筋、発達障害の患者集積性が高い ・精神、神経、筋、発達障害の専門家集団 <p>研 究：組織力・継続性 基礎から臨床応用まで一貫した臨床研究体制</p> <p>医 療：豊富な臨床実績</p> <p>人材育成：精神、神経、筋、発達障害に係る診療・研究の厚い指導体制</p> <p>情報発信：精神、神経、筋、発達障害に係る総合的な情報提供</p> | <p>○先駆的医療等の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神、神経、筋、発達障害の分野の研究において、産学、国立病院機構等との連携（医療クラスター）を形成 ・精神、神経、筋、発達障害の分野に係るトランスレーショナルリサーチ（TR）を推進 ・研究開発を推進するためのNC内での資源配分の適正化と研究基盤（データバンク等）の整備 <p>○医療の均てん化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神、神経、筋、発達障害の疾患に係る疾患別ネットワークを構築する等、医療の均てん化の道筋を確立 ・各分野の均てん化の進捗状況を評価し、地域医療体制の構築に助言 | |
| <p>弱み</p> | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・精神、神経、筋、発達障害の分野に専門分化したことによる低い総合力 ・研究成果と臨床応用との連携が弱い <p>研 究：・医学外の集学的研究体制が弱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業との連携が未成熟 <p>医 療：・都道府県等との連携が弱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療提供の「支援・指導者」としての位置づけが未成熟 ・データの蓄積・分析が未成熟 <p>人材育成：医療と研究のキャリアパスが未成熟</p> <p>情報発信：社会的情報発信が弱い</p> | <p>○人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神、神経、筋、発達障害の疾患に係る専門医及び研究者を育成するキャリアパスの構築 ・精神、神経、筋、発達障害の疾患に係るモデル医療均てん化のための指導医等専門家の育成 ・政策の円滑な実施のための自治体職員に対する研修の受入 <p>○情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神、神経、筋、発達障害の疾患の治療法等の普及啓発 ・精神、神経、筋、発達障害の疾患に係る診断・治療のガイドラインを提供 ・自殺対策等に係る関係者及び国民への情報提供 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療観察法の運用に係る中心的機関（診療・研究等） ・精神、神経、筋、発達障害の疾患に係る政策研究等による提言 ・自殺対策等に関する研究等による提言 | |

国立国際医療センターが担う主な役割（現状）

（研究）

- 疾病のメカニズムの解明
 - 1) 生活習慣病：テーラーメイド医療の推進に向けた遺伝-環境要因の同定と相互作用の解明
 - 2) 感染症・免疫：分子レベルでの感染成立機構および免疫応答システムの解明と疾病重症化に關与する病態鍵分子の探索
- 予防法開発
 - 1) 生活習慣病：予防法のエビデンス確立のための多施設型大規模コホート研究の実施
 - 2) 感染症・免疫：感染経路の同定と他研究機関と連携した新規予防法の開発
- 診断・治療技術の開発
 - 1) 生活習慣病：個々の特性に基づいたバイオマーカーの探索、ES細胞等を利用した臍臓組織再生技術など先駆的治療法の開発
 - 2) 感染症・免疫：全身的複合病態における感染症の診断法・治療法の開発、薬剤耐性化（多剤耐性化）を防止するための基盤研究および臨床研究の実施
- 医薬品及び医療機器の TR・治験

（・希少性疾患又は市場規模の小さい疾患分野、高い開発リスクを有する新規市場分野を中心に対応）
産学官連携により新規に開発された医薬品及び医療機器の TR・治験を推進するための臨床研究プラットフォームの形成
- 医療の均てん化手法（モデル医療・標準的医療）の開発
 - 1) 生活習慣病：複合した臓器合併症の臨床的評価を系統的かつ効率的に行い、さらに先駆的治療を 実践するためのモデル医療の開発
 - 2) 感染症・免疫：新感染症のアウトブレイク時の拡散防止および急性期患者に対するモデル医療の開発
院内感染や多剤耐性化の防止に向けた標準的医療の開発
- 研究基盤の整備
 - ・臨床試験支援（治験統括・支援等）
 - ・データバンク（臨床データ、検体等）

EBM を理解した生物統計専門家および臨床研究医の育成、臨床試験を支援する治験・臨床研究コーディネーターなどのコメディカルスタッフの育成、支援する組織体制の整備、病院コホート・プロジェクトを基盤とした臨床データ、検体の収集・保管、疾病データベースの整備・拡充

（医療の均てん化）

- モデル医療・標準的医療の普及
 - 1) 全国最大・最先端のエイズ医療施設としての最新治療の実践と全国均てん
→ 最新エイズ医療の実践と地域拠点病院への支援
 - 2) 新型インフルエンザなどの国際的な新興・再興感染症の征圧を目的とした危機管理医療
→ 新たな診断・治療法の均てんなど、特定感染症病床による全国的モデルなど

（人材育成）

- 高度専門家（臨床家、研究者）の育成
 - 1) 28の診療科を有する総合医療機関として各診療分野（エイズ、新興再興感染症）の専門医養成
 - 2) HIV/AIDS 患者の診療にあたる外部医療従事者を対象とした研修コースの実施
 - 3) 海外拠点病院への医師の短期交換留学（熱帯感染症研修）

（情報発信）

- 国内外での最新知見（研究成果等）を収集・評価し、最良の情報を提供
 - 1) 最新の HIV/AIDS 研究、診療情報の発信、首都圏感染症指定医療機関連絡会、新型インフルエンザ等時宜を得たテーマでの講演会実施
 - 2) （一般国民向け）HIV/AIDS 予防対策、感染症対策、メタボリックシンドロームに関する情報をホームページに掲載。生活習慣病教室の開催

（国際協力）

- 1) ユニバーサルな保健医療サービスの実践（二国間/多国間協力の実施、専門家の派遣）
 - 専門家派遣による途上国の保健医療システム構築、ベトナム等海外拠点への医療技術支援
 - 保健医療協力プロジェクト形成のための調査団、評価事業への参加、緊急援助隊の派遣
- 2) 開発途上国の医療従事者及び国際医療協力に従事する人材の育成（国際医療センターにおける研修）
- 3) WHO コラボレーティングセンターとしてポリオ根絶等、国際戦略に協力
 - 現地におけるWHO地域事務局との共同技術支援

わが国の医療政策と国立国際医療センター(IMCJ)を取り巻く環境と課題（考え方）

| <p style="text-align: center;">環 境</p> <p style="text-align: center;">I M C J</p> | 機 会 | 脅 威 |
|--|--|--|
| | <p><u>医療政策上の機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーション促進の機運 ・医療機能の分化の促進 <p><u>NCの直面する機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・非公務員型独法化による産学との連携の促進 | <p><u>医療政策上の脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の更なる進展 ・医師確保難など地域医療の脆弱化 ・NCの医療・研究の成果の政策への取り込みが不十分 <p><u>NCの直面する脅威</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政基盤脆弱化のおそれ ・絞り込めていない総花的医療・研究 ・優秀な人材の確保難のおそれ ・大学等との競合の熾烈化 ・地域医療との連携の弱さ |
| <p style="text-align: center;">強 み</p> | <p>国立国際医療センターの主な課題</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・特定分野の患者集積性が高い ・特定分野の専門家集団 <p>研 究：・組織力・継続性</p> <p>医 療：・豊富な臨床実績</p> <p>人材育成：・特定分野について診療・研究の厚い指導体制</p> <p>情報発信：・特定分野についての総合的な情報提供</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>先駆的医療等の研究</u> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究プラットフォームと医療情報センターの構築による国病機構・大学・企業等との連携による先駆的治療法の開発 ・臨床研究プラットフォームと医療情報センターの構築によるTRの推進 ・IMCJ全体としてのバイオリソース機能を備えた情報センターを構築 ○ <u>医療の均てん化</u> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病毎(*)の診療ネットワークの構築及び標準的治療法の確立 (*) AIDS・肝炎を中心とした感染症、糖尿病を中心とした代謝症候群、免疫難病を中心とした免疫・アレルギー・リウマチ性疾患 ・評価手法の開発と自治体スタッフの研修、地域医療体制のあり方の検証・評価と構築 | |
| <p style="text-align: center;">弱 み</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>人材育成</u> <ul style="list-style-type: none"> ・全診療科を有するIMCJの診療体制を生かした高度専門総合医療のできるスタッフの育成 ・エイズ、肝炎、代謝症候群などの診療分野において地域拠点病院が各地域の診療ネットワークの中で高度なモデル医療を実践できるようにIMCJにおいて指導医講習会などを実施し、専門家を育成 ・臨床研究プラットフォームを活用した臨床研究医師・臨床医学研究者の育成 ・日本人対象：国際医療協力に従事する人材育成のモデルプログラムの作成及び実施、ネットワーク機関における研修 ・外国人対象：高い評価を受ける保健医療人材の創出を目指したカウンターパート研修のカリキュラム、研修後評価、研修指導者育成 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・特定分野に専門分化したことによる低い総合力 ・研究成果と臨床応用との連携が弱い <p>研 究：・医学外の集学的研究体制が弱い</p> <p> ・企業との連携が未成熟</p> <p>医 療：・都道府県等との連携が弱い</p> <p> ・医療提供の「支援・指導者」としての位置づけが未成熟</p> <p> ・データの蓄積・分析が不十分</p> <p>人材育成：・医療と研究のキャリアパスが未成熟</p> <p>情報発信：・社会的情報発信が弱い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>情報発信</u> <ul style="list-style-type: none"> ・患者本位:予防・健診・最新治療法等について実際に国民が知りたいと思う情報の提供 ・医療機関本位:地域における診療ネットワークの中核医療機関としての機能充実が図られるような最新の研究成果、治療法等の提供 ・国際保健に関する情報の収集、国際医療協力活動のデータベース化の実施による情報発信 ○ <u>国際協力</u> <ul style="list-style-type: none"> ・従来からの国際的課題のみならずメタボリックシンドローム等新たな課題、緊急医療においても質の高い国際保健協力の実施 ・我が国の国際医療協力の実質的中心として戦略・政策提言 ・病院機能との連携により海外勤務邦人への継続的医療サービスの提供 ・国際保健関係機関とのネットワークを形成し、ハブ機能を担う。 ・二国間協力等の現場での経験とグローバル政策動向の両面を反映した国際保健研究の実施 ○ <u>その他</u> <ul style="list-style-type: none"> ・国の政策医療をサポートするための企画・調査機能の充実、政策提言のためのオフィシャルなシステムの構築 | |

国立成育医療センターが担う主な役割（現状）

| |
|--|
| （ 研 究 ） |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 生殖・初期発生、胎児発育、妊娠母体生理の研究 ○ 安全で効果的な不妊・不育・周産期治療の開発 ○ 小児超希少疾患および難治性疾患（先天異常・成長障害・小児がんなど）の病態解明と予防・診断・治療法の開発 ○ 成育医療に係る胎児診断・治療、移植医療の開発 ○ こころの疾患（摂食障害・虐待など）に対する研究および治療法の開発 ○ 臨床試験・治験の実施・推進による適切な予防・診断・治療法の確立 ○ 成育バイオリソース構築 |
| （医療の均てん化） |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 小児難治性疾患等や実施困難な領域等の臨床研究推進 ○ 慢性疾患の子どもと家族への生涯を通しての心身ケアの確立 ○ 不妊・不育／産科医療の標準化 ○ 周産期および小児救急ネットワーク構築による救急医療強化 ○ 成育医療における遠隔医療（eメディシン）の実践 |
| （人 材 育 成） |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療を支える総合的診療能力の優れた小児科医、産科医、子どもの心の診療医の研修・育成 ○ 成育医療を担う小児科医、小児関連外科医、麻酔科医などの専門医・指導医の研修・育成 ○ 専門性の高いコメディカルスタッフの研修・育成 ○ 成育臨床研究を立案・実施・支援できる医療スタッフ研修・育成 ○ 病院－研究所人事交流による臨床研究活性化 ○ 若年者教育（小学校、中学校、高等学校、大学）へのフィールド提供 |
| （情 報 発 信） |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 妊娠と薬事業等による安心・安全なくすり情報発信 ○ 新生児・周産期、小児慢性特定疾患等のデータベース構築 ○ 成育医療に係る医療機関等における診療情報の把握と分析 ○ 成育医療に係る各種相談事業などの展開 |
| （その他） |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 生殖補助医療で産まれた児の追跡など各種コホート研究推進 ○ 成育医療の適正化のための医療経済学的研究の実施 |